



# 細やかな気配り、目配りで

1級葬祭ディレクター 沢口隆司 & 1級葬祭ディレクター 吉田友恵

セレモニー会館 兼六笠舞 完成

読者プレゼント 図書カード 抽選で 50名様にプレゼント



# セレモニー会館 兼六笠舞 完成



遺族控え室（洋室）



遺族控え室（和室）

明治30年創業、118年続く株式会社村井の5館目の会館「セレモニー会館 兼六笠舞」が昨年11月に笠舞の地にオープン致しました。

120席までの一般葬から数名の家族葬まで幅広く対応。金沢中心部と街中近くに有り交通の便も良い場所です。

ホールに隣接する遺族控室は和室と洋間にベッド



ホール

ルーム、トイレ、バスルーム、着付室と用途に合わせ分かれており、床暖完備、ご遺族がゆったりと故人との時間を過ごせる作りとなっています。

控室とは別に来賓用の宿泊施設、通夜振る舞いや中陰法要後の会食を行う会食室もご用意しており、様々なお客様の希望に沿えるようになっています。



セレモニー会館兼六笠舞 支配人 長澤明子

## 兼六互助センターからのお願い

■ご住所・ご連絡先が変わられた会員様へ  
**住所等変更をお知らせください**  
 お電話またはEメールにて受け付けております。

**(076)242-0612**  
 Eメール: [muraigrp@po.incl.ne.jp](mailto:muraigrp@po.incl.ne.jp)

## 編集後記

このたび、(株)村井互助会会報誌「unjour-アンジュール」創刊させて頂きました。タイトルはフランス語で「いつの日か…」という意味で、社員一同いつの日か皆様と良いご縁をもてたらなどの想いを込めました。

今後は、年2回春と秋に皆様へお届けする予定です。ご意見、ご要望お待ちしております。

## 読者プレゼント



同封のハガキにご意見・ご感想・質問など  
 お気軽にお寄せください。 応募締切 5月31日(日)

図書カード (1,000円分)

プレゼント 抽選で 50名様に

こちらの企画は終了しました。ご了承ください。



吉田友恵 (よしだ ともえ) 1973年3月12日生

家族は、主人と高校2年生の息子、愛犬が一匹。  
趣味は、息子と一緒に始めたスノーボード、今でも一緒に出かけます。他に10年以上になる和太鼓があります。

# お客様に寄り添うチカラ



沢口隆司 (さわぐち りゅうじ) 1974年8月29日生

家族は、妻と中学1年生の娘、愛犬が一匹。  
趣味は、ゴルフや読書。お酒が好きで、特に赤ワインが好みます。

## ご遺族の負担を減らすことが ディレクターの大事な務め

私は「セレモニー会館兼六駅西」の支配人として、全スタッフを束ねて会館の運営を行うと共に、自身もディレクターとして、幅広い葬儀業務に関わる毎日を送っています。

ディレクション業務は実にさまざま。葬儀の日時や場所を決めることから始まって、「祭壇に飾る花は?」「参列者にお渡しする返礼品は?」など、ご遺族と話し合いながら、細かいことを一つずつ決めていきます。

ご自宅での納棺も、大事な仕事のひとつ。ご遺体を拭き清め、白装束に着替える納棺の儀は、ご遺族にとって故人の旅立ちを実感するとき。気を引き締め、心を込めてお手伝いしています。

私が仕事をする上で特に大事にしていること。それは、「ご遺族の精神的な負担を、少しでも軽く

## できる限りご要望を叶えて 悔いの残らない葬儀に

私の主な仕事は、お通夜と葬式2日間のお客様のお世話です。喪主様と打ち合わせを行いながら、弔辞や焼香の順番など、葬儀に必要な情報を確認。司会原稿へと落とし込みます。当日は、服装はもちろんのこと、髪型や口紅の色にも心を配り、不快な印象を与えないことを心がけています。

司会をする上で私が大切にしていること。それは「お客様のご要望を、できる限り叶えて差し上げる」ということです。

葬儀はご遺族にとって、大切な故人との辛いお別れのとき。打ち合わせしていると、深い悲しみが伝わってきます。「自分はこれからどうなるの?」「と、ご自身の将来に不安を抱えるご遺族もおられます。葬儀は、いわば節目。悲しみに包まれながらも前向きに受け止めていただき、前へと進んで

して差し上げること」です。

悲しみの中でも、ご遺族には次々と決め事や手続きが迫ってきます。「お弁当の種類や数は?」「焼香を読み上げる順番は?」「花の位置は?」など。ところが多くのお客様にとって、葬儀は初めての経験。悲しみの中で慣れないことを、しかも短期間のうちに矢継ぎ早に行うのは、大きな負担になっていると、身近でひしひしと感じています。

ですから私は「分かりやすく」「簡潔に」説明することで、決めることの負担を、少しでも軽くしたいと思っています。お客様の気持ちに寄り添い、プロとして葬儀をリードしていくこと。それが、葬祭ディレクターの務めだと思っております。その結果、「沢口さんが担当してくれたから、気持ちが悪くなった」と言っていただけのこと。それが何よりの喜びでもあり、励みにもなっています。

## どんなときも感謝を忘れず できる限りのサポートを!

私が座右の銘にしているのが、「俺が俺の『我』(が)を捨てて、お陰お陰の『下』(げ)で暮らせ」という言葉。これは鎌倉末期の僧・伝呆の言葉。自分中心ではなく、感謝を忘れず生きることを教えてくれる、大切な言葉です。

最期の旅立ちに関わる仕事をしていて感じるのは、「人は一人では生きていけない」という事実。当然ながら、葬儀もディレクターだけでは成り立ちません。故人を想うお客様や職場の仲間たち、協力関係各社の皆様がいてくださってこそ。まさに「おかげ」を実感する毎日なのです。

これからも、葬儀という大切な場面で当社を選んでくださるお客様のために、「おかげ」を噛みしめながら、精一杯のサポートをまいります。

いただくためにも、お客様に心残りがあったてはないと思うのです。そのためには、お客様の要望をしっかりと聞き、悔いを残さない葬儀を実現することが、私の務めだと思っています。

とはいっても、お客様にとっては、葬儀が初めてであることがほとんど。「何をしたいですか?」と漠然と問うだけでは不十分。生前に故人が好んでいた音楽を伺って葬儀中に流したり、気持ちを手紙にしたためることを提案したりするなど、ご遺族の気持ちを自然と引き出すヒアリングや、お見送りの気持ちが伝わるような提案を大事にしています。

## 細やかな気配り・目配り お客様の疲れを癒やしたい

もう一つ心がけているのが、「葬儀中の目配り・気配り」です。咳をした方がいれば、お水を差し上げる。肌寒いと感じれば、ひざ掛けをお渡しする。ちよっとしたことですが、お客様の疲れが癒やされればいいと思っています。また実際に、「吉田さんに担当してもらえて良かったです」という言葉をいただけたときには、本当にうれしい気持ちになります。

入社から4年が経ち、そろそろ中堅という立場になりました。ですが、初心を忘れず、そしてお客様の心に寄り添えるように、これからも葬儀に関わっていきたく決意を新たにしています。

葬儀とは、喪主様を中心に、ご家族やご親戚、そして参列者の皆様など、多くの方々が関わる節目のとき。ご遺族を中心にすべての方々の心に寄り添いながら、葬儀を滞りなく円滑に終えること。これからも、ご遺族の気持ちを第一に考え、目配りや気配りを大事にしながら、サポートしてまいります。

人生の節目にまつわるお悩み解決

# Q & A

## Q 御布施は幾らくらいかかりますか?

A お寺様に直接聞くことは失礼になりません。宗旨によって金額の相場が異なりますが、すべて合わせて一般的には20〜50万くらいでしょうか。

一般的には仏式において枕経、通夜、葬儀、火葬場、中陰法要、繰り上げ初七日をまとめて一つ、葬儀終了翌日から49日までの分を一つと分けて御布施の用意が必要となります。その他に法名料又は戒名料が別途必要となります。

お食事につかない場合は御膳料、遠方から来られるお客様には御車代が必要ですよ。



## Q お葬儀のお花はあまりいろんな所に飾ってはいけないと聞きますが実際どうですか?

A お寺様に聞いた所、お花はお花なので気にする必要はありません。あとは本人が気にするかの問題で仏事的な定義はありません、迷信のようなものです。

## Q 香典の相場は幾らですか?

A お付き合いの程度、社内のポジションにもよりますが一般の場合五千円か一万円、又は二万円くらいです。親戚の場合三万円〜十万円と血縁の近さやお付き合いの程度で変わります。

## Q 家族葬とは?

A 一つの決まった形式と言うものではありませんが、内々でアットホームに故人を見送ることができ、規模を抑えられる分比較的安い価格で施行できます。ただし葬儀終了後にその事実を知った知人の弔問の対応や香典の返礼に追われてしまったりと注意点もあります。

葬儀とは家族はもちろんのこと家族以外の方もお別れされる場でもありますのでよく考えて決められることをお勧めします。

